

# 点検ハンマー

第1号 発行日 2009年10月28日 発 責 石尾 光春・編 集 地本車技常任委員会

## 新幹線地本車両技術分科会第12回定期 委員会成功裏に開催される！

### スローガン

「蒲郡駅事件」の不当弾圧を許さず、完全無罪・職場復帰を勝ち取ろう。

組織改正の名のもとに労働強化を許さず、安全で明るい職場を作り出そう。

私達、車両技術分科会は10月25日品川第一区民集会所において第12回の車両技術分科会定期委員会を開催しました。午後2時からの開催となりましたが、東京車両所分会、三島車両所分会から休み、明け多くの会員の参加のもと成功裏に行われてきました。議長には東京車両所分会の佐藤さんが選出されました。

石尾会長挨拶（要旨） 冤罪「蒲郡駅事件」加藤さんは推認だけで有罪にされている。職場で何か問題を起こすと交検に行くかと言っている助役がいる。交検は悪い職場なのか？リニアは必要なのか？莫大な借金を抱えることになる、葛西会長も松本社長も、そのときはいない、今の若手に借金を残していくことになる。7月3日東海道線で触車事故があった、システムだけでは事故はなくせない。

#### 来賓挨拶（要旨）

##### 本部車両技術分科会松木会長

・地本車両技術分科会をもっているのは新幹線だけである。ディスクブレーキ亀裂、セミアク故障これからも調査活動をお願いしたい。

##### 新幹線地本中村副委員長（車両技術分科会担当）

- ・「蒲郡駅事件」高裁で控訴棄却となった。最高裁の場となる。
- ・ディスクブレーキの関係でボルトは減ってきてはいるがディスクの亀裂は同じである。一体型から分割型へ要求している。
- ・三つの車両所となってどうなったのか、フラッパーゲートは社員管理のものである。
- ・要求事項等ユニオン若手は見ている、業務上の専門性を持って取り組んでいこう。



### 質疑においては全委員、傍聴者から多くの意見が出されました。(主な意見)

- ・加藤さんと奥さんの苦闘を全体で支えていこう。
- ・構内操縦で出勤遅延が多く(若手に甘えがあるが)管理者が恫喝をかけている。
- ・営業職場では管理者によるパワハラで心の病になっている若手社員がいる。
- ・三島で浜工からの移動者がヒューマンエラーを、教育・見習いに問題があるのではないか。
- ・交検は年配者と若手である、外注化を考えているのではないか。
- ・仕業では年休が入らない、要員の問題がある。分会と分科会で取り組んでいこう。
- ・分会の統一で最強最大の分会をつくる、分科会が大事である。
- ・旧東一、旧東二の良いところをお互いに取り入れて分会活動を。
- ・交検(3班)は上がる時間が遅いので走って庁舎に上がる、危険である。

### 以上出された意見について森谷事務長から

若手社員には先輩として、意見を言っていこう。しかし、管理者の恫喝パワハラにたいしては問題である。誰でも出来る「標準化」ではなかったのか? 「標準化」ができれば仕事はできると会社は言っている。仕業検査の「コンテスト」は何を意味するのかしっかりと見ていこう。おかしいことはおかしいとハッキリ言っていこう。要求事項等については新幹線地本業務部に上申していきます。

### 最後に今回で退任される榛村副会長の閉会挨拶

JR西日本の一連の問題についてヤッキリ(遠州弁で心から怒りが湧いてくる)する。加藤さんの裁判で、裁判長は「指紋が無いからと言って犯人で無いという証拠はない」と言っていた。全て推認で犯人にされている冗談ではない。最後まで闘っていこう。

今回退任された榛村さん、田村さんご苦労様でした。

新役員体制です。会員の皆さんよろしくお願いします。

会長	石尾 光春	修繕車両所
副会長	秋田 斉	交検車両所
副会長	鎌田 孝一	修繕車両所
事務長	布施 喜一	仕業車両所
常任委員	菊池 実	交検車両所
常任委員	森谷 孝一	仕業車両所
常任委員	土屋 浩一	修繕車両所